

茨城内水試 か わ ら 版

No. 182

2011年4月13日発行

茨城県内水面水産試験場

茨城県行方市玉造甲1560

TEL: 0299-55-0324 FAX: 0299-55-1787

E-mail: naisuishi@pref.ibaraki.lg.jp

URL : 「茨城内水試」で検索！

東日本大震災に起因する「玉造沖湖底隆起」について

1. はじめに

2011年3月11日に発生した“東日本大震災”の後、行方市浜地先からかすみがうら市柏崎地先にかけて横ひき漁業を行った操業者から、「同地先の霞ヶ浦湖底が隆起している箇所があり、漁網が湖底の泥を搔いてしまい、網を放棄した」との連絡が入ったため、湖底状況調査を行いました。

2. 調査方法

2011年4月7日に、調査船「おおとり」により湖底状況調査を行いました。高浜入り南半分の中央部付近を北から南に、微速（1.8 ノット）で航行し、魚探・GPS等を用いて湖底の形状変化を目視で確認し、際だった形状変化については画像をデジタルカメラで記録しました。

3. 調査結果

行方市浜地先とかすみがうら市柏崎地先の間差点で、通常の湖底隆起とは異なる湖底隆起を確認しました。通常の湖底隆起は緩やかに上昇して緩やかに低下するのに対し、今回の特異な湖底隆起は断続的で激しい上下変動が見られ、その高低差は40～50cmを示していました（図—1、図—2参照）。この特異な湖底隆起の箇所は、上記の操業者情報と同様、行方市浜地先とかすみがうら市柏崎地先の間差点に位置していました。

4. まとめ

通商産業省地質調査所（現 独立行政法人産業総合研究所）が1980年代に行った調査によると、行方市浜地先からかすみがうら市柏崎地先にかけての湖底状況は、泥（不透明層）が広く分布しており、通常では不連続な湖底隆起は認められません（図—3参照）。今回の大震災では、茨城県内水面水産試験場の敷地内で液状化と同時に、湖側に向かう地割れが多数発生しました。今回の玉造沖の湖底隆起も、地震のエネルギーが湖底にまで及んだものと考えられ、その漁業に対する影響を注視する必要があります。

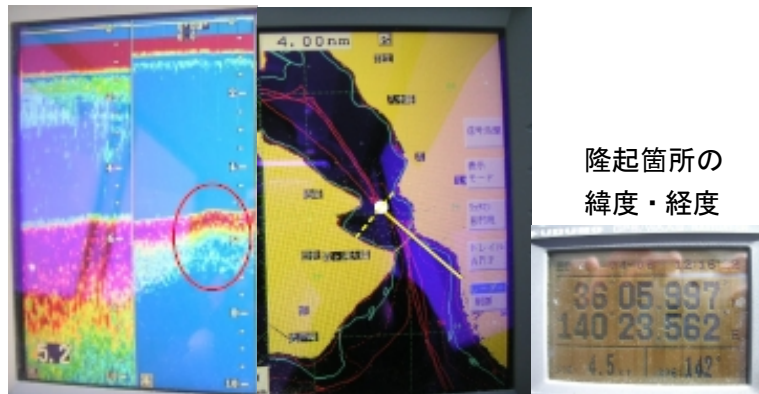
【参考文献】

井内美郎・斉藤文紀（1993）：海跡湖の地史—3 霞ヶ浦. URBAN KUBOTA. No. 32. 56-63.

（湖沼部 岩崎 順）

魚探画像

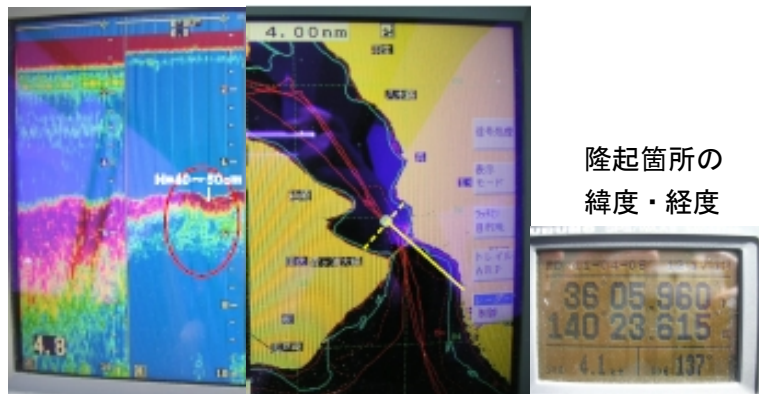
GPS 画像



図—1. 通常の湖底隆起 (2011.4.7)

魚探画像

GPS 画像



図—2. 特異な湖底隆起 (2011.4.7)

図—3. 霞ヶ浦湖底状況図

